

お知らせ

記者発表資料

令和元年5月31日

■同時発表先

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

平成30年7月豪雨を踏まえ、河川整備の目標及び内容等の 点検を行い、必要な見直しを進めます。 ～ウェブサイトを立ち上げました～

- ◆ 中国地方整備局では、河川整備計画^{*}を策定後、近年の洪水による災害の発生等の流域の社会情勢の変化や地域の意向等を適切に反映できるよう定期的に河川整備計画を点検し、変更を行う必要性を確認しています。
- ◆ 平成30年7月豪雨では、特に降水量の多かった河川を中心に洪水による甚大な被害が発生しました。【資料1】
- ◆ そのため、中国地方整備局管内13水系の河川整備計画を一斉に点検し、今回の洪水が整備目標を超えた河川等では、必要な見直しを進めることとしました。【資料2】【資料3】
- ◆ 見直しにあたっては、近年頻発、激甚化する水災害に対して、気候変動による治水対策への影響を分析し、抜本的なハード対策を検討します。【資料4】【資料5】

河川整備計画の点検内容の詳細は、以下のウェブサイトでとりまとめました。

今後、各河川での検討状況等は随時ご覧いただけます。

<https://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/syokai/busyo/kasen/plan/index3.htm>

(トップページ/河川部/河川整備基本方針・河川整備計画)

※河川整備計画・・・当面の河川整備の目標と具体的な実施内容等を示したもの

<問い合わせ先>

中国地方整備局 082-221-9231 (代表) : (平日・昼間)

【担当】

河川部	河川調査官	よしむら 吉村	げんご 元吾	(内線3513)
	河川計画課長	わだ 和田	ひろき 紘希	(内線3611)

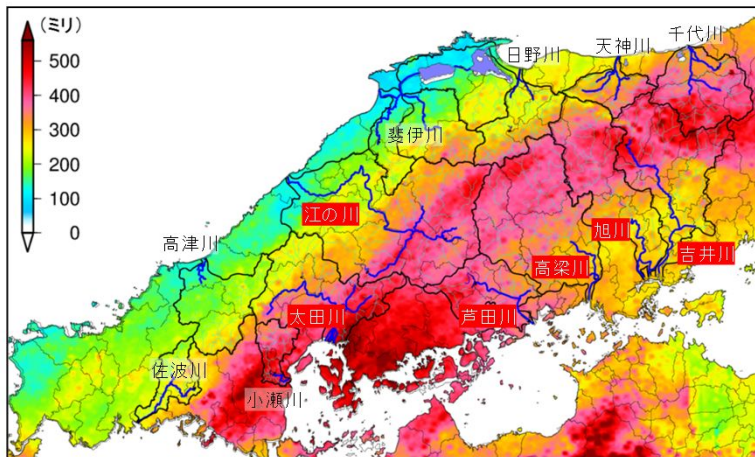
【広報担当窓口】

広報広聴対策官	いわした 岩下	やすひさ 恭久	(内線2117)
企画部 環境調整官	さかもと 坂本	やすまさ 泰正	(内線3114)

◆平成30年7月豪雨概要(中国地整管内)

■平成30年7月豪雨では、特に降雨量が多かった河川を中心に氾濫危険水位を超過し、家屋浸水被害や河川管理施設への被害が発生しました。

【平成30年7月豪雨】雨量分布図(解析雨量)(2018/7/5 0:00~7/9 9:00)



※広島地方気象台提供資料を一部加工

江の川居住地側での漏水



太田川支川三篠川の橋梁流失

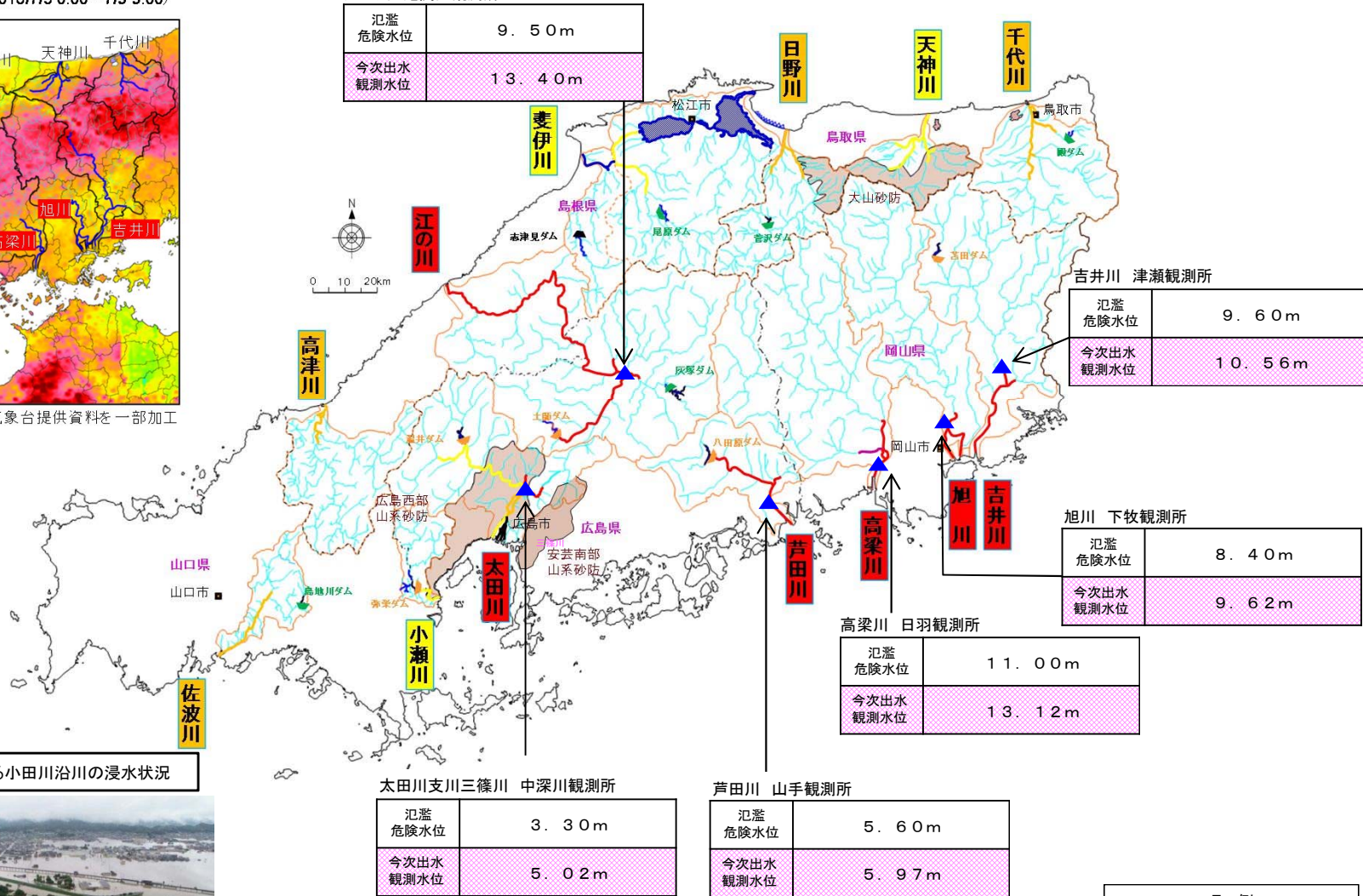


堤防決壊による小田川沿川の浸水状況



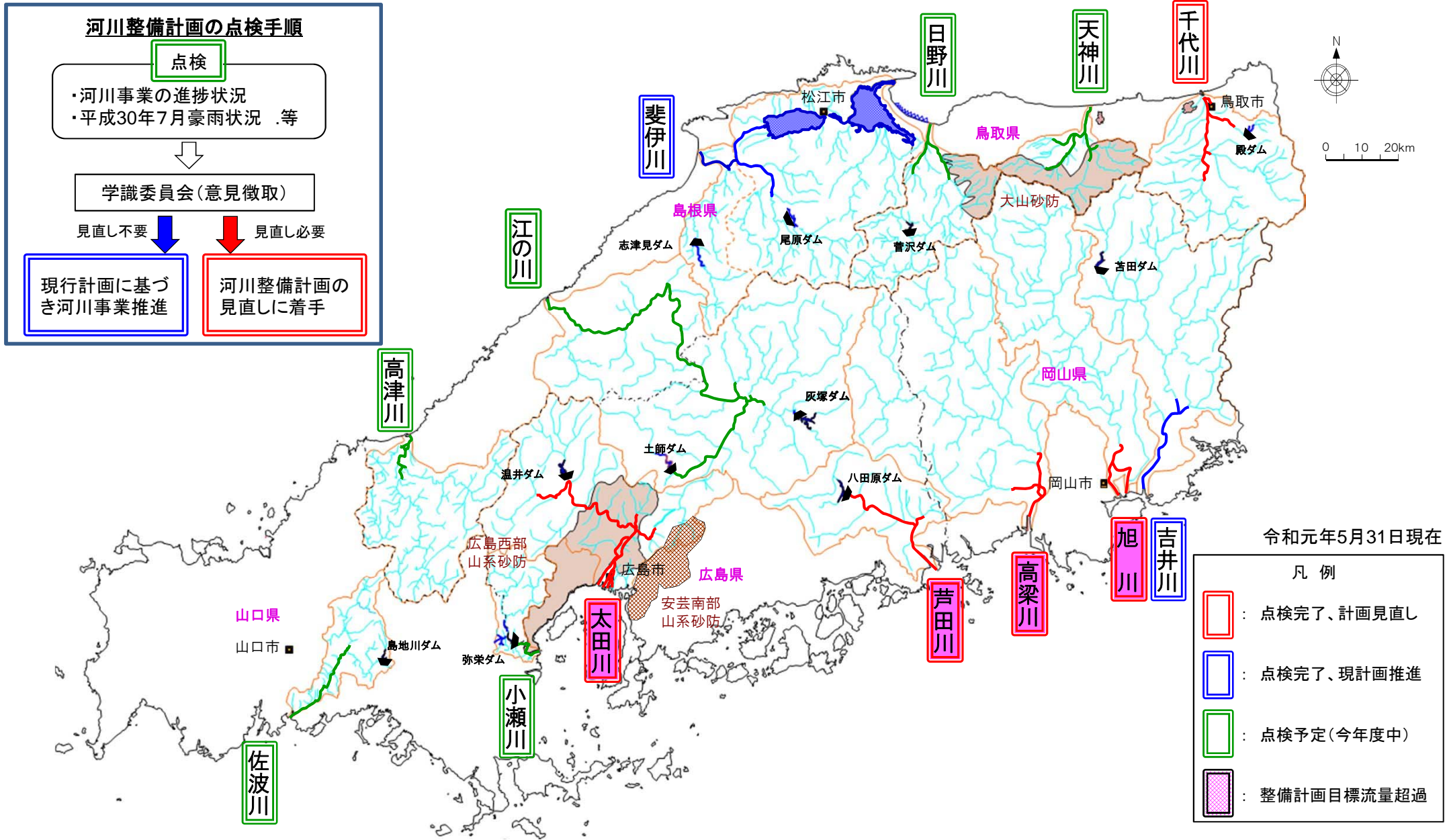
江の川 尾関山観測所

氾濫危険水位	9.50m
今次出水観測水位	13.40m



- 凡例
- レベル5(氾濫の発生)
 - レベル4(氾濫危険水位超過)
 - レベル3(避難判断水位超過)
 - レベル2(氾濫注意水位超過)
 - 異常洪水時防災操作実施ダム
 - 特別防災操作実施ダム
 - 洪水貯留操作実施ダム

■ 平成30年7月豪雨を踏まえ、平成29年度までに策定されている中国地方整備局管内13水系の河川整備計画の点検を行い、学識者の意見を踏まえ、必要な見直しを進めています。



- 点検は、流域の社会情勢の変化(近年の洪水等による災害の発生状況)、及び事業の進捗状況等を踏まえ、整備目標及び実施内容の妥当性を確認します。
- これまで点検を実施した河川において、見直しを行う河川は千代川、旭川、高梁川、芦田川、太田川です。

令和元年5月31日現在

※流域平均雨量、流量は速報値

河川名	点検実施月	洪水の外力と被災の特徴			整備計画目標との比較	点検結果	
千代川	2019.3	行徳地点	流域平均雨量※	372mm	観測史上第1位	整備計画目標流量 約4,300m ³ /s	現行整備計画の実施内容が完了するため、次期展開の検討が必要 →見直しの必要性 有り
			流量※	3,800m ³ /s	観測史上第2位		
			被害状況	低水護岸で一部損壊等			
斐伊川	2019.3	上島地点	流域平均雨量※	203mm	観測史上第13位	整備計画目標流量 約2,700m ³ /s	被害状況から現行の内容で対応可能 →見直しの必要性 無し (定期的にフォローアップ実施)
			流量※	2,000m ³ /s	観測史上第12位		
			被害状況	護床工で被災等			
平成30年7月洪水より規模が大きい平成30年9月(台風24号)洪水を対象に整備計画を点検している。							
吉井川	2019.2	岩戸地点	流域平均雨量※	368mm	観測史上第1位	整備計画目標流量 約8,000m ³ /s	被害状況から現行の内容で対応可能 →見直しの必要性 無し (定期的にフォローアップ実施)
			流量※	7,300m ³ /s	観測史上第2位		
			被害状況	低水護岸で一部損壊等			
旭川	2019.2	下牧地点	流域平均雨量※	363mm	観測史上第1位	整備計画目標流量 約4,800m ³ /s 【目標超過】	被害状況より目標及び内容の見直し 検討が必要 →2019.3 見直しに着手
			流量※	5,400m ³ /s	観測史上第2位		
			被害状況	内水による家屋浸水被害や堤防の民地側で法崩れ等			
高梁川	2019.2	船穂地点	流域平均雨量※	347mm	観測史上第2位	整備計画目標流量 約8,000m ³ /s 【目標超過】	被害状況より目標及び内容の見直し 検討が必要 →2019.3 見直しに着手
			流量※	9,200m ³ /s	観測史上第1位		
			被害状況	小田川の堤防決壊、高梁川において内水による浸水被害等			
芦田川	2019.5	山手地点	流域平均雨量※	281mm	観測史上第1位	整備計画目標流量 約2,600m ³ /s 【目標超過】	被害状況より目標及び内容の見直し 検討が必要 →2019.5 見直しに着手
			流量※	2,900m ³ /s	観測史上第1位		
			被害状況	内水による家屋浸水被害等			
太田川	2019.3	中深川地点	流域平均雨量※	405mm	観測史上第1位	整備計画目標流量 約1,200m ³ /s 【目標超過】 (支川三篠川)	被害状況より目標及び内容の見直し 検討が必要 →2019.3 見直しに着手
			流量※	1,600m ³ /s	観測史上第1位		
			被害状況	三篠川沿川で越水・溢水及び内水による家屋浸水被害や護岸倒壊等			

整備計画目標流量:ダム等の洪水調節施設が無い場合の流量を記載

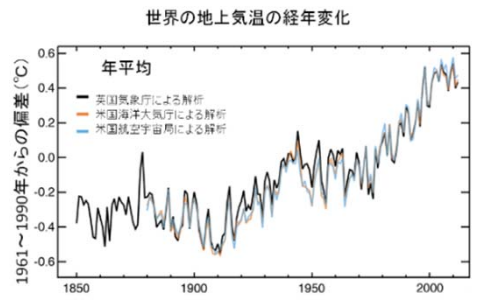
■ 近年頻発、激甚化する水災害に対して、気候変動による治水事業への影響を整理し、必要な対応を検討します。

既に発生していること

今後、予測されること

気温

- ◆ 世界の平均地上気温は1850～1900年と2003～2012年を比較して0.78℃上昇

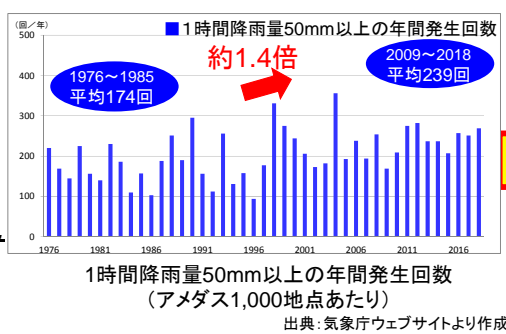


- ◆ 気候システムの温暖化については疑う余地がない
- ◆ 21世紀末までに、世界平均気温が更に0.3～4.8℃上昇

出典：気候変動に関する政府間パネル(IPCC)：第5次評価報告書、2013

降雨

- ◆ 強雨の発生件数が約30年前の約1.4倍に増加
- ◆ 2012年以降、全国の約3割の地点で、1時間当たりの降雨量が観測史上最大を更新



- ◆ 1時間降雨量50mm以上の発生回数が2倍以上に増加

出典：気象庁ウェブサイトより作成

(参考)気候変動による将来の降雨量、流量、洪水発生確率の変化倍率

前提となる気候シナリオ	降雨量変化倍率 (全国一級水系の平均値)	流量変化倍率 (全国一級水系の平均値)	洪水発生確率の変化倍率 (全国一級水系の平均値)
RCP8.5(4℃上昇に相当)	約1.3倍	約1.4倍	約4倍
RCP2.6(2℃上昇に相当)	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

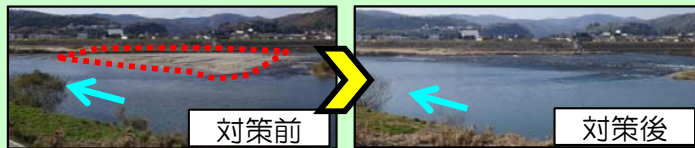
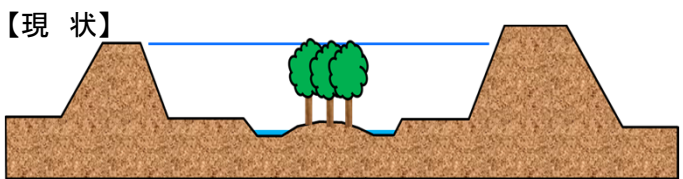
※降雨量変化倍率は、20世紀末(1951年-2011年)と比較した21世紀末(2090年)時点における一級水系の治水計画の目標とする規模の降雨量変化倍率の平均値
 ※降雨量変化倍率のRCP8.5シナリオ(4℃上昇に相当)は、産業革命以前に比べて全球平均温度が4℃上昇した世界をシミュレーションしたd4PDFデータを活用して試算
 ※降雨量変化倍率のRCP2.6シナリオ(2℃上昇に相当)は、表中のRCP8.5シナリオ(4℃上昇に相当)の結果を、日本国内における気候変動予測の不確実性を考慮した結果について(お知らせ)「環境省、気象庁」から得られるRCP8.5、RCP2.6の関係性より換算
 ※流量変化倍率は、降雨量変化倍率を乗じた降雨より算出した一級水系の治水計画の目標とする規模の流量変化倍率の平均値
 ※洪水発生確率の変化倍率は、一級水系の現在の計画規模の洪水の、現在と将来の発生確率の変化倍率の平均値
 (例えば、洪水発生確率が1/100から1/50に変化する場合は、洪水発生確率の変化倍率は2倍となる)
 ※降雨量変化倍率は国土技術政策総合研究所による試算値。流量変化倍率と洪水発生確率の変化倍率は、各地方整備局による試算値。

ハード対策

■ステップ1【現在の施設機能確保】

施設の機能を適切に発揮させるための
ハード対策を実施
(防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策等)

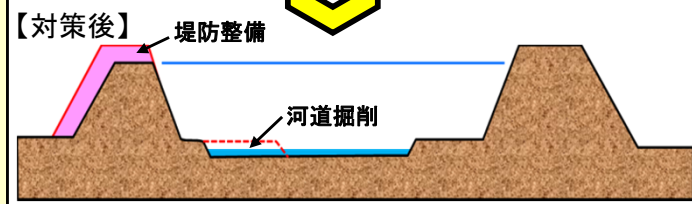
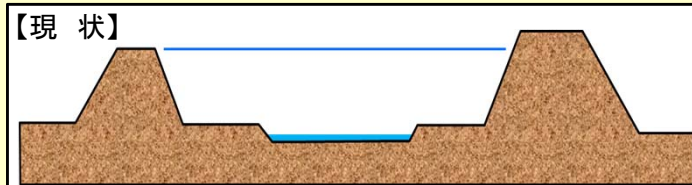
【対策事例】
堆積土砂の撤去や樹木伐採等



■ステップ2【現河川整備計画の推進】

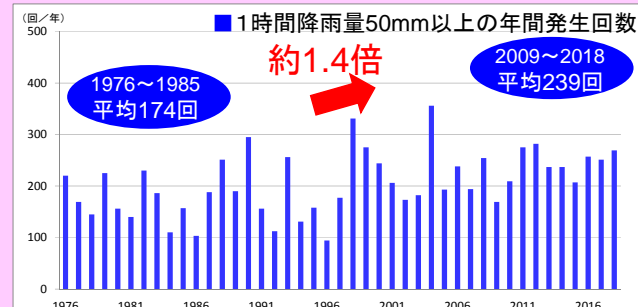
現在の河川整備計画に対して、
整備途上箇所において、ハード対策を着実に実施

【対策事例】
堤防整備（高上げ・断面拡大）や河道掘削等



■ステップ3【河川整備計画の見直し】

平成30年7月豪雨での出水状況や、
気候変動による影響を分析し、抜本的なハード
対策を検討

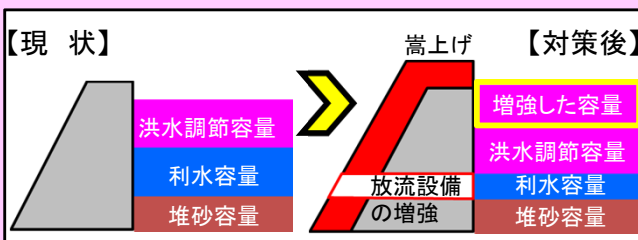


**水害リスク
の増大**

河川整備計画の見直し

目標とする治水安全度の引き上げ
新たな対策の検討・実施

【対策事例】
追加の河道掘削や既設ダム治水機能増強等



ソフト対策

スマートフォンによる
水位画像情報の提供



多機関連携型
タイムラインの作成

複合的な災害にも多層的
に備え、社会全体で被害を
防止・軽減させるため

公共交通事業者やメディア
関係者、利水ダム管理者等
の多様な関係機関の連携を
したタイムラインを作成

メディア連携による
情報発信



地方における
メディア連携協議会の設置

住民主体のソフト対策
マイ・ハザードマップ作成
マイ・タイムライン作成

